# 地域の人々とコミュニケ―ションを図ろう！

| 参加者 | 生徒・教職員　５５０名<br>町内会リーダー　９名 |
|---|---|

会場：板橋区立志村第三中学校

| 実施時間 | 平日１０：３０～１１：１０ |
|---|---|

| プログラム要素 | 集団行動／コミュニケーション力・助け合い |
|---|---|

＜プログラムのポイント＞

- 大地震発生時の避難並びに**住民防災組織別に集団下校訓練**
- **地域の避難場所を改めて確認**する
- **地域の人々、リーダーとのコミュニケーション**を図る場

＜プログラムの流れ＞

**校内訓練**

地震発生を想定した避難 ➡ 地区班に集合

自分がどの住民防災組織に属しているか改めて確認する場となる。また１年生～３年生まで、地域の異学年の生徒を見知る機会をつくる。

**地区毎の避難場所へ避難**

地域毎の避難場所・道順を確認 ➡ 地域リーダーと共に避難

自分の地域の防災リーダーとの面識を持つ。また自分の住んでいる地域の避難場所を確認し、そこまでの道順を知る。

**発展**

地域ハザードマップの作成

避難場所までの経路に、消火栓や消火器といった防災設備があるか、消防車が入れないような道路はないか、崩れ易い塀・看板等はないか、なども確かめる。それをハザードマップにまとめ、地域の人たちと情報を共有する。

＜ここがおススメ！＞

子どもたちが地域のリーダーと顔見知りになり、コミュニケーションを図る機会となる。自分の家・学校・地域の避難所を結ぶ避難路を把握する。

【プログラム】

| 開始時間 | 終了時間 | 対象者 | 訓練 | 場所 | 目的 |
|---|---|---|---|---|---|
| 10:15 | 10:20 | 1年生<br>2年生<br>3年生 | ①机の下に身を隠して揺れが収まるのを待つ。<br>②放送の指示で荷物を持ってプール前に集合。 | 教室→プール前に集合 | 自分達の地区の友人・防災リーダーを知った上で、避難場所を確認する。 |
| 10:25 | 11:10 | | ①　人員確認<br>②各学年の班長の確認<br>③解散場所の確認<br>④道順と歩き方の確認 | | |
| 11:10 | 終了 | | ①解散場所での人数確認<br>②地域防災リーダー紹介 | 避難場所にて | |

町会名と避難場所

| 町会名 | 1年生 | 2年生 | 3年生 | 避難場所 |
|---|---|---|---|---|
| 蓮根南町会 | 5名 | 15名 | 14名 | 蓮根みなみ公園 |
| 蓮根本町会 | 12名 | 12名 | 15名 | 蓮根氷川神社 |
| 蓮根東町会 | 36名 | 31名 | 36名 | 城北公園出張所横広場 |
| 蓮根仲町会 | 19名 | 15名 | 19名 | 植村冒険館前 |
| 蓮根公団自治会 | 14名 | 10名 | 19名 | 公団内30番地広場 |
| 蓮根坂下3丁目町会 | 20名 | 22名 | 14名 | 坂下3丁目公園 |
| 蓮根3丁目自治会 | 8名 | 21名 | 14名 | 蓮根小横ゲートボール場 |
| 長後町会 | 35名 | 28名 | 36名 | 城北公園内児童公園 |
| その他・学区域外 | 19名 | 17名 | 18名 | 城北公園バックネット前 |

◆◇実施によって◇◆

自分がどの住民防災組織に所属するのか知らないという子どもが増えている中で、それを確かめ、地域の防災リーダーと顔見知りとなるよい機会となった。また、地域の避難所を知ることは、家に一人でいる時や登下校中など、学校以外で災害に遭った時にも、自分で考え行動する基本となる。

**←校庭へ避難**

地震発生後のアナウンスの後、生徒達は教室から校庭へ避難開始。騒がずにグランドで整列待機する生徒の態度はすばらしかった。

**避難場所の確認→**

先生による生徒達の地域別避難場所の確認

**←地域斑に集合**

指示によりそれぞれの地域班に集合

**マップ作成→**

ＤＩＧによって地域版
ハザードマップを作成

■□　地域と連携したプログラムのすすめ

ー自助・共助で防災力を高めようー　□■

子どもたちが、大きな災害から身を守るためには、状況に応じて適切に対処できる力が必要です。この自助の力を養うために、リアリティのある訓練や学習を繰り返し、災害イメージを高めていきます。それには、学校と地域が連携して、具体的に災害をイメージできる機会を増やすことが重要です。

また、災害時に適切に対応できるかどうかは、地域レベルの情報をいかに素早く得ることができるか、にかかっています。ところが、子どもたちの情報源は、普段は同世代の子どもか保護者、それにマスコミであり、地域の大人から情報を得る機会はほとんどありません。災害時には、ＴＶやラジオなどマスコミは、被害の多い地域や一般的な注意事項しか伝えてくれません。日常的に地域と連携し、異学年の生徒や大人とも数多く知り合うことによって、災害時に必要な「情報」ソースを広げることができるのです。

ここで紹介したような地域と連携した防災教育プログラムを通じて、子ども・その保護者・地域の大人をどんどん巻き込み、地域の人同士が日常的に交流し助け合うことが、子どもたちの、そして地域の防災力を高めていきます。

板橋区防災課長　鍵屋　一